

ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）
太平洋共同体事務局（SPC）

最近の動き

最近の資源評価は 2015 年に SPC の専門家グループにより行われた。同年の WCPFC 科学委員会は、この結果を踏まえ、管理方策を勧告した。2016 年の WCPFC 科学委員会では資源評価は行われず本種の漁獲トレンドの更新のみが報告された。

生物学的特性

- 体長・体重：最大約 120 cm、約 30 kg
- 寿命：12 歳以上
- 成熟開始年齢：6 歳
- 産卵期・産卵場：10 ~ 2 月（南半球の春・夏季）、中・西部熱帯～亜熱帯海域
- 索餌場：南緯 30 ~ 45 度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

缶詰原料など

漁業の特徴

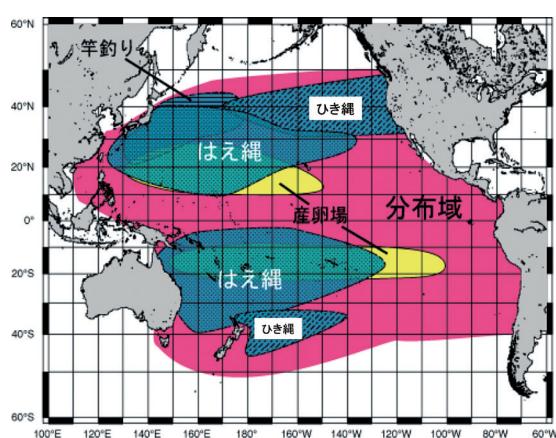
本種を対象とする漁業は、1950 年代初めから日本、韓国、台湾のはえ縄で始まった。1960 年代までの漁業はこの 3 か国のはえ縄だけであったが、1970 年代以降、ニュージーランドや島嶼国などがはえ縄やひき縄で参入し、1980 年代の一時期には流し網も行われた。現在の主な漁業は、遠洋漁業国（日本、中国、台湾、韓国）や島嶼国（フィジー、サモア、仮領ポリネシア）のはえ縄、ニュージーランド、米国のひき縄であり、竿釣りの漁獲はわずかである。

漁獲の動向

年間の総漁獲量は、1960 年に 2 万トンを超えてから 1990 年代までは約 2.2 万～4.9 万トンの範囲で増減していたが、2000 年代以降は増加して 2015 年まで 4.7 万～8.9 万トンで推移している。2015 年は 6.9 万トンであり、2014 年の水準を 16% 下回り、2010～2014 年の平均も下回った。国別の漁獲量は、1970 年代以降 2000 年代まで最大であった台湾が近年減少する一方、中国が 2008 年から急増し、2014 年以降、最大となった。また、近年は島嶼国の漁獲量も急増している。漁業別の漁獲量は、近年は中国以外の遠洋漁業国のはえ縄が減少し、島嶼国のはえ縄が増加しつつある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄が最も多い。

資源状態

2015 年に SPC が Multifan-CL を用いて資源評価を行い、WCPFC 科学委員会に報告した。推定親魚資源量は減少傾向で直近の 2013 年は 16.4 万トンであり、漁業がないと仮定して推定した現在の資源量 ($SB_{F=0}$) の 40% で、MSY 水準 (5.7 万トン) 及び限界管理基準値 (20% $SB_{F=0}$) を上回り、乱獲状態ではないとされ、高位と判断される。親魚の漁獲係数 (F) は、2000 年頃に急増し、以降高く推移しており増加傾向である。現状の $F_{2009-2013}$ の F_{MSY} に対する比率は 0.39 と推定され、過剰漁獲ではないとされた。漁業別では亜熱帯域における近年のはえ縄による漁獲が本資源へ大きく影響しているとされた。



太平洋におけるビンナガの分布域と主な漁場
南北のビンナガは赤道で区分される。

管理方策

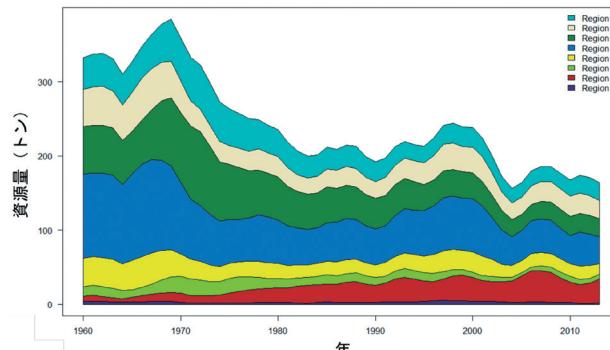
SPC は 2015 年の WCPFC 科学委員会において、次の通り報告した。努力量の更なる増加は長期にわたって漁獲量は増えないことに加えて、漁獲効率の減少をもたらす可能性があることを留意する。南太平洋ピンナガ資源の減少は、島嶼国のはえ縄漁業の経済的状況を衰退させる重要な要素である。また、魚価の低迷は遠洋はえ縄漁業にも影響がある。亜熱帯域のはえ縄漁業の漁獲量と努力量の増加が南緯 10 ~ 30 度の特にはえ縄による成魚の漁獲効率を下げている可能性があることに留意する。現在は過剰漁獲でもなく、乱獲状態でもないが、漁業が経済的に存続できる漁獲効率を維持する資源量とするために、SC10 同様に引き続きはえ縄漁業による死亡率と漁獲量を減少することを勧告する。

WCPFC 科学委員会は、SPC の報告を検討し、生物学的な限界管理基準値を下回ることを回避し、経済的に実現可能な漁獲率を持続するために、はえ縄の努力量と漁獲量を減少することを勧告した。

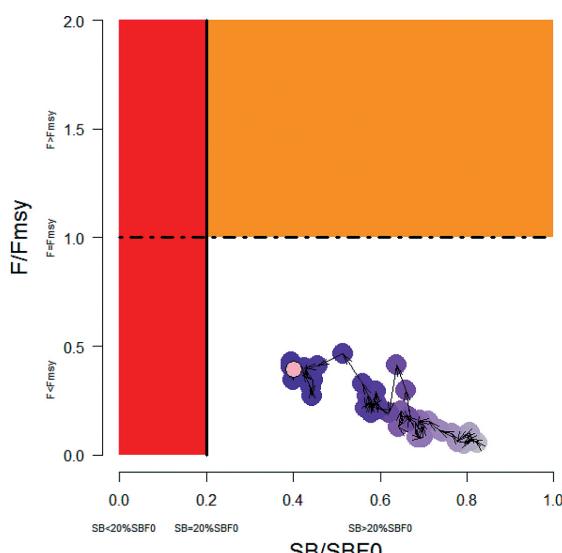
WCPFC においては、南緯 20 度以南の太平洋でピンナガを目的として操業する漁船隻数を 2005 年または過去 5 年間（2000 ~ 2004 年）の平均より増加させないこととが 2005 年に合意されており、引き続き踏襲された。

管理方策のまとめ

- 南緯 20 度以南の太平洋でピンナガを目的として操業する漁船隻数を 2005 年または過去 5 年間（2000 ~ 2004 年）の平均より増加させない。



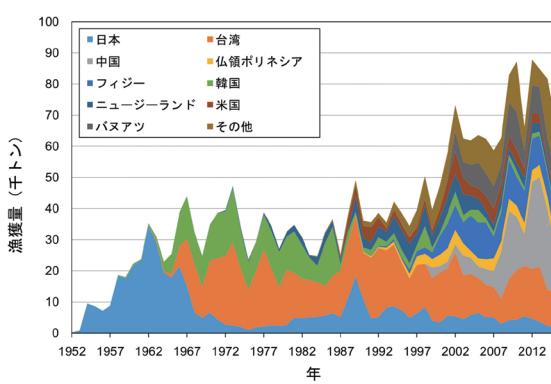
南太平洋におけるピンナガの産卵資源量の推定値



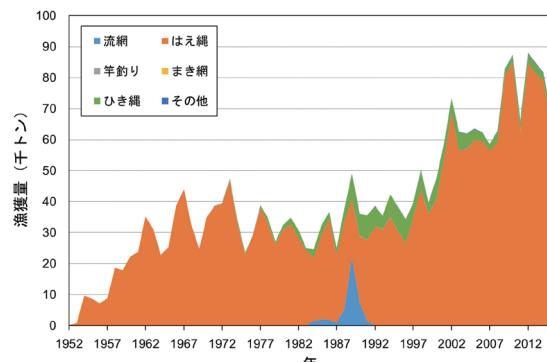
南太平洋のピンナガに関する F/F_{MSY} と SB/SB_{F0}

資源状態のまとめ

- 2015 年 SPC によって Multifan-CL によって実施。
- 推定親魚資源量は減少傾向で 16.4 万トン（2013 年）であり、漁業がないと仮定して推定した現在の資源量 ($SB_{F=0}$) の 41 % で限界管理基準値 (20% $SB_{F=0}$) を上回り、乱獲状態でなく、高位と判断される。
- 現状の漁獲係数 ($F_{2009-2013}$) は増加傾向であるが $F_{2009-2013}/F_{MSY}$ は 0.39 と推定され、過剰漁獲でない。



南太平洋におけるピンナガの国別漁獲量



南太平洋におけるピンナガの漁法別漁獲量

ピンナガ(南太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.6 万 ~ 8.8 万トン 最近 (2015) 年 : 6.9 万トン 平均 : 7.0 万トン (2011 ~ 2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1,800 ~ 5,400 トン 最近 (2015) 年 : 1,753 トン 平均 : 3,555 トン (2011 ~ 2015 年)
最新の資源評価年	2015 年
次回の資源評価年	2018 年